



学校だより

和歌山市立四箇郷小学校

平成29(2017)年度:No.29

2月号No.2文責/校長:上田 仁

めあて「安全の日」って何?【5年Rさんのぐんぐんノートより】

動機

2月15日に、正門であいさつ運動をしていると、音楽を鳴らしながらパトカーが走っていて、校長先生が、「今日15日だから安全の日。だからパトカーいるんや」と言っていたので、安全の日って何?と思ったから。後、校長先生が「安全の日は1日と5日」と言っていたので、他に安全の日はないのかと疑問に思ったから。

調べた結果

和歌山は「平成29年度和歌山県交通安全県民運動推進要綱」を策定しており、運動の期間は、平成29年4月1日から平成30年3月1日まで続けるのだそう。

☆推進点は…☆

- (1) 子供と高齢者の交通事故防止(あわさない おこさない)
- (2) 飲酒運転の根絶
- (3) 後部座席を含めたシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (4) 歩行中・自転車乗用中の交通事故の防止(特に自転車は自転車安全利用五則の周知徹底)

☆県内一斉交通安全指導の日は?…☆

- ・子供安全の日 …毎月 1日
- ・近畿交通安全デー…毎月15日
- ・交通事故ゼロの日…毎月25日
- ・交通事故死ゼロを目指す日…4月10日、9月30日

校長先生が言っていたのはこれだ!!

☆ちなみに安全運動は?…☆

- ・春の全国交通安全運動 …平成29年4月 6日~15日
- ・わかやま夏の交通安全運動…平成29年7月11日~20日
- ・秋の全国交通安全運動 …平成29年9月21日~30日
- ・わかやま冬の交通安全運動…平成29年12月1日~10日

けす。で力く当
れそ。きとと、た
ばそのる。と努力皆、安
なりことのものでさんの前・安
まに感だ維ののこ全は
せん感謝と持意識こと決
ね。い思・識とでは
。なま続協な

感想

安全の日にパトロールしてくれるのは、すごくありがたいし安心するなと思いました。

もちろん君のことだから、トルコの船を助けたのはわが和歌山県の人たちであること知っているよね。それは郷土の誇りと言えるでしょう。

でた仲たわ好 治う こだに昔力人 平然ををむが
 きえ良ちせにたののしと °あ、した東和に助ここ協ぼ
 るかくとてさし問はか、こっオてち日につござるてだしが
 こけな仲いせか題今し前うたスくが本なう、自 °て考
 とるっ良なるになも、例や時マれ被大なう、自 °て考
 だ。こてす °な国があしてい協本ル聞をの思う °うのよ、題と
 と、 °い °こ °がぼ国が感がでし助のたけ、 °破る国には
 そ °と °がぼ国が感がでし助のたけ、 °破る国には
 れしは違くのら感がでし助のたけ、 °破る国には
 がよでうは関だじ協は助け船 °よト °破る国には
 ぼにき国持係 °る力なけたがずうル °破る国には
 くうるのちを °しい合そ事とコ °破る国には
 にっ °子合良 政合 °うう故と協の °破る国には

2/9(金)朝日新聞に掲載
平和 今のぼくにできること
六年 男子児童

めあて 『どうしてバレンタインデーが2/14なのか』

【5年Kさんのぐんぐんノートより】

予想

チョコレート屋さんが、チョコレートがたくさん売れるように考えた人の誕生日

調べたこと

バレンタインという名前は、3世紀のローマにいたキリスト教の司教さんの名前からきています。この方は、当時兵士の婚姻が制限されていたときに、兵士の結婚式をかくれて行っていたということが発覚し、ローマ帝国に処刑されたという話が残っています。この処刑された期日が西暦269年の2月14日になったということが言われています。ただし、かなり昔の話であり、これが正確かということについては議論があるようです。

以上のことをまとめると、ローマ時代の兵士の結婚にはきまりがあって、かくれて行ったことがわかり、国に殺されたその日が2月14日であった。「バレンタイン」という名前は、当時のキリスト教の司教の名前である。ただし、かなり昔の話なので、これが本当かどうかは、色々な話があるということ。

最後に

予想とは全然違ったが、2月14日にはそのような深い意味があることを知った。特に、ローマ時代には、今と違う結婚のきまりがあると知り、驚いた。

おぼろげには知って
いまして、Kさん
を読んだその意味に
を驚かされた。少
々驚かされた。少
うかかれ気分なのは
本人だけ？

教育論文の表彰式に行ってきました。これは毎年、市内の幼・小・中・高の教員を対象に、市の教育研究所が主催し応募形式で行われています。誰もが通るわけではなく、当然審査があり今年も本校から2人が受賞しました。その席で教育長曰く、たくさんの論文に目を通し、その中でも特に最後の考察の部分に着目して読んだとのこと。また教育研究所長からは、こうやって考えることを楽しむことが大切であるとの講評がありました。教壇に立ってからずっと応募している教員もいると聞き、彼らのその志（こころざし）と向学心に感心させられた次第です。

No Image

No Image

さて、今回の記事をご覧のように、本校の児童も学校生活の様々な機会に「書く」活動をしています。それは主に日記や作文、感想文ですが、今後、学年を経るごとに論文形式の文章を書く機会も増えてきます。作文と論文の違うところは、自分の思いや経験を書くのが作文で、独自の考えや主張を書くのが論文だと聞いたことがあります。何れにしてもどちらも自分の言葉で書くことが肝心で、『考察』するでもなく『考えることを楽しむ』わけでもなく、コピペ（コピー＆ペースト）作業だけで終わるのが最近の風潮。それは時には盗用（要するにパクリ）という問題まで起こっています。さらに、いくら思いが強く経験を積んでいたとしても、また、独創的な考えや道理にかなった意見であっても、それらを相手に伝え理解されなくては意味がないとも言えるでしょう。

論文でも作文でも、要はどれだけ自分の言葉で表現し、それをどれだけ相手に理解されるかがポイントになるのかもしれないね。